

巻頭言 ー新年のご挨拶ー



＜病院長＞
坂下 暁子

皆さま、新年あけましておめでとうございます。

この新たな年の幕開けに、皆さまに心よりご挨拶申し上げます。昨年も当院をご信頼いただき、私たち医療従事者にその健康を託していただいたこと、深く感謝申し上げます。本年も、皆さまにより良い医療を提供し、安心して治療を受けていただける環境づくりに全力で取り組んでまいります。

新年を迎え、家族や大切な人と集い、語り合う時間を過ごされた方も多いのではないのでしょうか。こうした穏やかな団欒（だんらん）の中で、「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）」について話し合う機会を持つことを、ぜひご検討いただきたいと思います。

ACPは、将来の医療やケアについて、患者さんご家族、医療従事者があらかじめ話し合い、共有するプロセスのことを指します。健康なうちは普段意識する機会が少ないかもしれませんが、いざ病気やけがで治療の選択を迫られたとき、あらかじめ考えを整理しておくことが、大切な意思決定を支える大きな助けになります。

ACPの話し合いは、決して重いテーマばかりではありません。「もしものときにどんな治療を望むか」「自分が大切にしていることは何か」「どんな場所で過ごしたいか」など、ご自身やご家族の価値観や希望について共有する、心温まる対話の機会でもあります。新年の団欒（だんらん）が、皆さまにとってこうした話題を自然に取り上げるきっかけになれば幸いです。

当院では、ACPの考え方を推進し、患者さんご家族が安心して話し合えるよう支援する取り組みを行っています。ご自身の体調や治療方針について不安や疑問がある場合は、ぜひ医師や看護師にご相談ください。私たちは、皆さま一人ひとりの人生の歩みに寄り添う医療を提供し、どんなときでも力になりたいと考えています。

本年も、地域医療の中核として、最先端の医療技術の提供と患者さんの心に寄り添うケアを追求してまいります。そして、次世代の医療人育成や研究活動を通じ、未来の医療をさらに進化させることにも努めます。

結びに、この一年が皆さまにとって健康で穏やかなものでありますよう、心よりお祈り申し上げます。私たち職員一同、皆さまの健康と笑顔を支えるため、全力を尽くしてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



P1 【巻頭言】 新年のご挨拶

P2 【医学講座コーナー】 子どもの感染症

P3 【医学講座コーナー】 子どもの感染症

【お知らせ】 1月 がん患者サロン「きぼう」

P4 【患者さんからのご意見・ご要望】 【編集後記】

お子様の感染症について、症状と対策、気を付けることを説明します。

(こどもセンター 村瀬准教授)

よくみられる症状

子どもの感染症は、たいてい熱が出るところから始まります。そのほかによく見られる症状は、せき、鼻水、のどの痛み、だるさ、食欲が落ちる、発疹、下痢などです。最初は何の病気かわかりにくいのですが、病気によって特徴的な症状が出てくることがあります。

例えば・・・？

- おたふくかぜ → 耳の下が腫れる
- 水ぼうそう → かゆみのあるぶつぶつができる
- 手足口病 → 口の中や手足に赤い発疹ができる



効果的な対策

感染症から子どもを守るためには、以下のことが大切です。

- 手洗い、うがいをしっかりする
特に外から帰ってきたとき、ご飯の前、トイレの後は必ず行いましょう。
- 予防接種をきちんと受ける
決められた時期に必要な予防接種を受けることで、重い感染症を防ぐことができます。
- 十分な休息と栄養をとる
病気にかかったときは、しっかり休んで、水分と栄養をとることが大切です。
- 感染拡大防止
感染した子供は、解熱するまで集団生活を控え、咳などの症状がある場合はマスクの着用など感染予防を行い、他の子供たちへの感染拡大を防ぐことが大切です。登園/登校許可が必要な場合は、指定された期間は集団生活を控えましょう。
- 抗生物質（抗菌薬）の使用
小児の感染症では、90%がウイルス性であるため、大半のケースで抗生物質による治療は不要です。ただし、医師から抗生物質が処方された際は、指示された通りに服用することが大切です。

特に気を付けたいこと

1. 熱が出たときの対応

発熱は体が病気と闘うための自然な防御反応です。ただし生後3か月未満の赤ちゃんが予防接種を受けていないのに発熱した場合、重篤な感染症を伴っている可能性があるため、すぐに医療機関での診察を受けることが重要です。生後6か月以降のお子さんの場合、たとえ高熱であっても、水分をしっかりと摂取でき、機嫌も良好であれば、必ずしも解熱剤（熱冷まし）を使用する必要はありません。

ただし、高熱により食事や睡眠が十分に取れない場合は、解熱剤を使用して症状を和らげてあげましょう。そうすることで、適切な栄養と休息が取れ、回復が早まります。

2. けいれん（ひきつけ）が起きたとき

6ヶ月から6歳頃までのお子さんは、高熱時にけいれんを起こすことがあります。けいれんが発生した場合は、すでに収まっている場合でも、必ず医療機関での診察を受けてください。もしけいれんが5分以上続く場合や、収まったかどうか判断できない場合は、緊急性が高い状態ですので、すぐに救急車を要請してください。また、可能であればけいれんの様子を動画で記録しておく、医師が原因を特定する際の重要な手がかりとなります。

先生からの一言ポイント

特徴的な症状は、病院に行く頃には消えていることもあります。そのため、気になる症状があったときは写真を撮っておくと診察の参考になります。

心配なことがあれば、かかりつけの小児科の先生に相談してください。特に赤ちゃんは、体調の変化が急激なことがあるので、様子がおかしいと感じたら、早めに受診することをお勧めします。

【お知らせ】1月 がん患者サロン「きぼう」

がん患者サロン「きぼう」の1月17日（金）の開催が決定いたしました。

今月のがん患者サロンでは、「がん治療中の食事の工夫」「治療中の食事、治療中のお口のケア」についてのミニレクチャーを行います。がん療養において必ず直面する、緩和ケアや患者さんとそのご家族のこころのケアについてお話しする予定です。ぜひご参加ください。



1月度 がん患者サロン「きぼう」

開催日時：1月17日（金）14：00～15：00

申込方法：申し込み不要、途中参加、途中退出も大歓迎！

開催場所：昭和大学横浜市北部病院 中央棟9階会議室

ミニレクチャー：「がん治療中の食事の工夫」「治療中の食事、治療中のお口のケア」

お問い合わせ：中央棟1階 100番「総合サポートセンター」045-949-7000（代）

患者さんからのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答・改善等
整形外科の方で入院して、歩行器を2週間借りたのですが、まだ少し不安だったので延長して借りることにしました。 2週間単位で最初はいいのですが、延長する場合は1週間という単位で貸していただけるとありがたいです。 よろしくお願いします。	貴重なご意見ありがとうございます。 レンタル料金についてご納得いただけないことについては十分理解いたします。尚、福祉用具レンタルは通常1ヵ月単位となっております。 2週間単位のレンタルは、横浜市北部病院の患者さん向けに特別に設定された期間であり、通常は数日でも1ヵ月単位の料金(歩行器は4,000円)となることをご理解いただきたいと思います。 また、レンタルごとに生じる消毒・点検作業、そのための回収・納品の運搬作業を含めた中で、通常ではない廉価であることも、あわせてご理解いただければ幸いです。 (回答部署：ナチュラルローソン)
雨の日の傘袋、折りたたみ傘用の袋も用意していただけると助かります。	ご意見ありがとうございます。中央棟1階正面入口および、地下1階時間外受付(防災センター)前に、折りたたみ傘用の袋を用意しましたので、ご利用ください。 (回答部署：管理課)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。2025年、今年の干支は巳(ヘビ)年です。へびとえば、「やぶへび」「鬼がでるか蛇がでるか」など、あまり良い意味ではないたとえに使われますが、脱皮を繰り返すことから「復活・再生」の象徴とされ、縁起の良い年とされています。そんな縁起の良い一年の始まりに初詣に行く方も多いのではないのでしょうか。

初詣とえば、お賽銭です。正式にお賽銭として決められた額はないそうですが、5円(ご縁)を基本にして、15円(十分なご縁)、25円(二重のご縁)、115円(いいご縁)、125円(じゅうにぶんなご縁)、415円(よいご縁)など語呂合わせや、5円玉と50円玉は、真ん中に穴が開いていることで、「運が通リやすくなる」「見通しが良くなる」など縁起の良い硬貨を使いお賽銭の金額を決めてみるのもいかがでしょうか。

本年も皆さまにとって素晴らしい1年となりますよう、お祈り申し上げます。

(地域医療連携室 鈴木主査)



北部病院だより 第199号(2025年1月1日発行)

発行責任者 坂下 暁子(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩顕(広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。